



アフリカの森林における 協働事業のための教訓

西・中部アフリカにおけるアフリカ開発会議 (TICAD)
との協力による最近のITTOプロジェクト報告書

ポリシーブリーフ



本ポリシーブリーフは、Jürgen BlaserとOlivier Ahiminが実施した事後評価に基づいており、Alastair Sarreが編集を担当しました。



コートジボワールのアフア保全林で苗木を植える女性グループMALEBIのメンバー2人 (PD 725/13)。写真: Afrique Green Side

アフリカの森林に関する協力

森林や樹木は、木材・木質燃料・きれいな水・食料・医薬品の生産、地域・地球規模での気候調節、文化的に重要な役割、土壌の保全や生物多様性の保持および花粉媒介者の生息地の提供による農業への支援など、人間に必要な物や生態系サービスを提供するとともに、人々の健康と福祉にとって重要です。また、森林は多くの国で国内総生産の大きな割合を占め、世界中で数百万人の雇用の基盤となっています。

このような恩恵を受け続けるためには、持続的に森林を利用する必要があります。しかし、世界の森林面積は、熱帯地域を中心に毎年470万ヘクタール以上減少しており、残された森林の大部分も劣化しています。

森林の保全と持続可能な利用が現在最も重要なのは、アフリカです。アフリカでは、人口が急速に増加しており、2020年までの10年間における森林の純減が年間390万ヘクタールと、驚くほど高い水準にあります¹。

1 FAO (2020) 『世界森林資源評価2020 (FRA2020) メインレポート』国連食糧農業機関 (FAO)、イタリア・ローマ
2 現在改訂作業中。改訂版は、2022年度後半に公開予定。

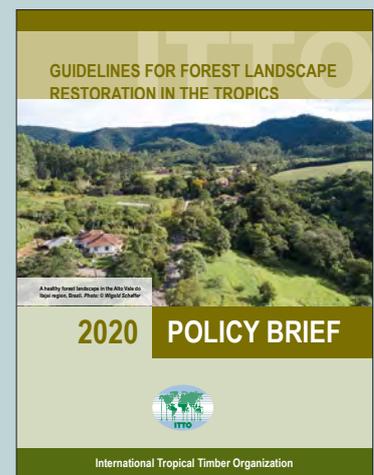
国際熱帯木材機関 (ITTO) は、日本の横浜市に本部を置き、熱帯林資源の保全と持続可能な経営、利用、貿易を促進しています。日本やアフリカ13カ国を含む74カ国が加盟する政府間機関であり、持続可能な熱帯林の経営、劣化した森林や景観の再生、森林関連の川下産業の発展、持続可能な木材貿易の推進に豊富な経験を有しています。ITTOは、持続可能な森林経営 (SFM) と森林関連企業の振興のため、国際的に合意された政策文書やガイドラインを発行し (Box 1 参照)、それらがプロジェクトを通じて、アフリカやその他の地域の加盟国で各地の状況に合わせて、現場で実施されるように支援しています。

このポリシーブリーフは、西・中部アフリカにおけるITTOのプロジェクトを検証し、そこから学んだ教訓をまとめ、ITTOとアフリカ開発会議 (TICAD) の今後の協力的分野について提案するものです。検証結果に関する報告書の完全版は、2022年11月に開催予定の第58回国際熱帯木材理事會にて発表される予定です。

表紙写真: ガーナ、パム・ベレクム森林保護区の再生された森林地帯と地元の農業従事者たち (PD 530/08)。写真: Emmanuel Antwi Bawuah

Box1: ITTO政策ガイドライン

広く運用されているITTOガイドラインの例として、『アフリカ木材機関 (ATO)/ITTO原則、アフリカ天然熱帯森林における持続可能な経営についての基準と指標』(2003)²、『熱帯生産林における生物多様性のためのITTO・IUCNとの共同ガイドライン』(2009)、『天然熱帯林の持続可能な経営に関するガイドライン』(2015)、『持続可能な熱帯林経営のための基準と指標』(2016)、『熱帯地域における森林景観再生のためのガイドライン』(2020)が挙げられます。



ITTOとTICADの連携

ITTOは2つの包括的な目標を掲げています。

- 1) 持続可能な方法で経営された森林から合法的に伐採された熱帯木材の国際貿易の拡大と多様化。
- 2) 熱帯木材生産林の持続可能な経営。

ITTOは最近、新たな戦略的行動計画³を採択し、2022年から2026年にかけての組織の優先事項を以下の4つに決めました。

- 1) **ガバナンスと投資** — 持続可能な熱帯林経営と合法的で持続可能な林産物サプライチェーン、および関連貿易への資金協力と投資を強化するために、グッドガバナンスと政策枠組みを推進する。
- 2) **経済と熱帯木材貿易** — 熱帯木材や他の林産物の加工貿易とサービスの促進を通じて、国や地元の経済と人々の生計の強靱性に対する熱帯林セクターの貢献度を高める。

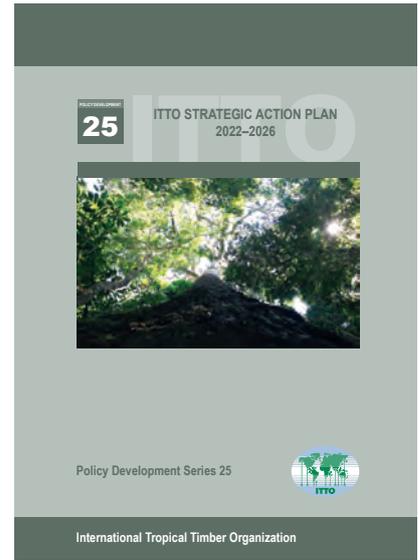
³ ITTO (2022) 『ITTO戦略的行動計画2022-2026』ITTO政策シリーズ第25号。日本・横浜。参照: www.itto.int/council_committees/action_plans

- 3) **レジリエンス、再生、保全** — 熱帯林の減少と劣化を削減し、森林景観の再生を促進し、気候変動に対する森林の生態系の強靱性を高め、森林の生物多様性と生態系サービスを保全する。
- 4) **統計と情報** — 熱帯林産物市場のアクセス、拡大、多様化に関連する課題と機会をはじめとする、市場・サプライチェーン・国際貿易に関する情報の質、利用しやすさ、適時性を向上させる。

TICADは、アフリカの指導者と開発パートナーとのハイレベル政策対話を促進するために、1993年に開始された日本によるイニシアティブです。TICADは開始以来、アフリカの開発のための基本的かつ包括的な政策やガイドラインを提供してきました。TICADの目標は、国際社会の知識と資源を動員して、アフリカのさらなる発展を支援することです。

TICADは、主に以下の5つの重点分野において政策活動を行っています。

- 1) 経済成長の促進
- 2) 人間の安全保障の確保
- 3) 平和の定着
- 4) 持続可能な開発目標の達成
- 5) 気候変動などの環境問題への対応



ITTOは日本を拠点とする政府間機関として、アフリカの林業をさらに強化するために、TICADとの協力が重要であると認識しています。このような協力は、ITTOとTICADの双方の目標に貢献することができます。



ベナンのバナメにある苗床で苗の手入れをする作業員たち。苗木の生産は、ベナンの国家森林統計情報管理システム (PD 678/12) で測定される指標の一つ。写真: PAGEFCOM

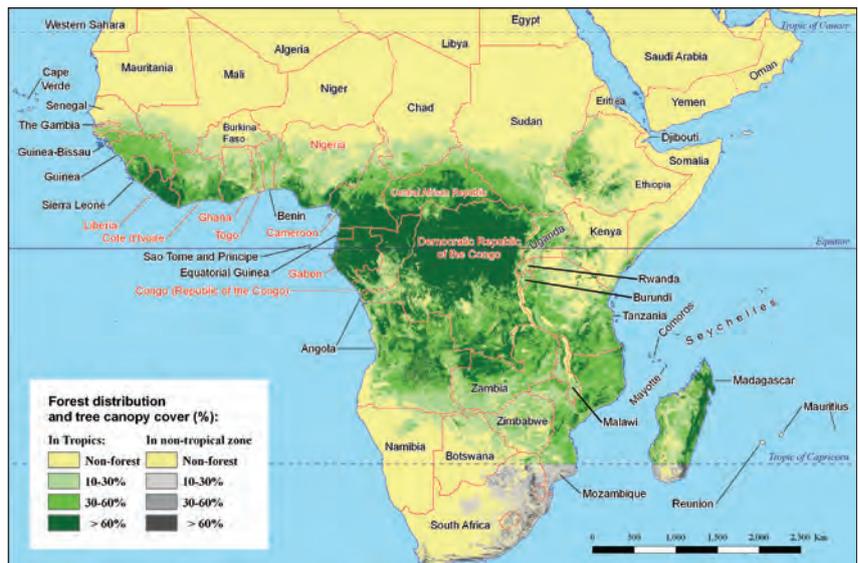
西・中部アフリカにおけるITTOプロジェクト評価 (2010年～2020年)

2021年の第57回会合で、国際熱帯木材理事會 (ITTOの最高意思決定機関) は、アフリカにおける日本政府の今後の森林関連のアクションに活用することを目的として、アフリカで実施したITTOプロジェクトの主な結果をまとめ、事後評価を行うようITTO事務局に要請しました。評価では、2010年から2020年の間に承認され、ITTO戦略的行動計画2013-2021の下で実施・完了した、西アフリカと中部アフリカにおける10件のプロジェクトを検証しました。プロジェクトのうち6件は西アフリカ(コートジボワール3件、ベナン2件、ガーナ1件)で、4件は主にコンゴ盆地にある複数の国家間にわたって実施されたものです。図1は西・中部アフリカのプロジェクト実施国と森林の分布、表1は10件のプロジェクトの詳細を示しています。

プロジェクトが実施されたすべての国では、森林面積と生物多様性が減少し、森林劣化が拡大しています。また多くの人々が林産物と森林の土壌の利用(しばしば短周期の焼畑農業)によって生計を立てています。

ITTOの10件のプロジェクトへの予算総額は約1,220万米ドルで、主に日本政府により拠出されています。その他の資金提供者はオーストラリア、ベルギー、中国、

図1: アフリカの森林分布



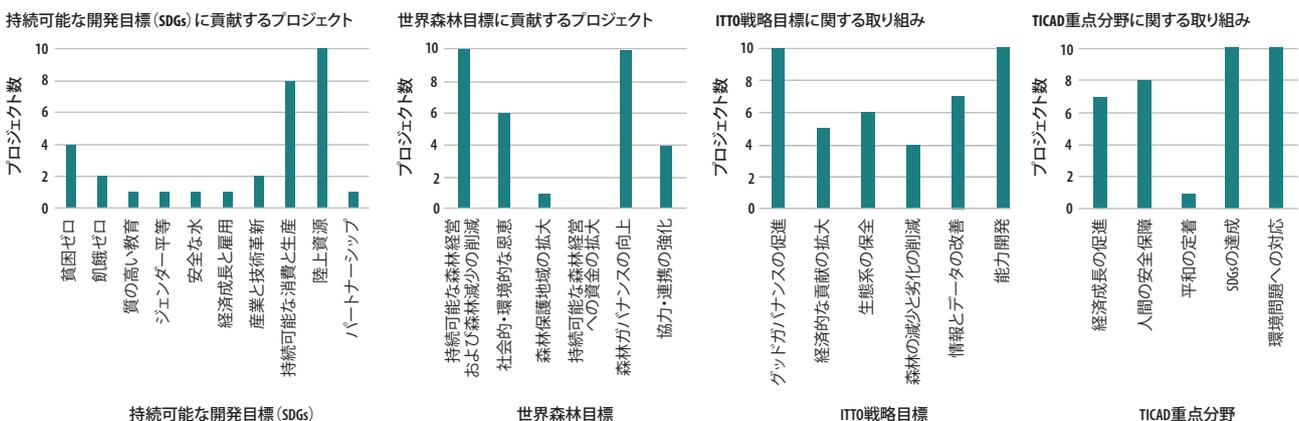
注: 本書で評価されているプロジェクトは、西アフリカ(コートジボワール、ガーナ、ベナン)およびコンゴ盆地(カメルーン、中央アフリカ共和国、コンゴ共和国、コンゴ民主共和国、ガボン)で実施された。地図出典: Blaser, J., Sarre, A., Poore, D. & Johnson, S. (2011)『熱帯林経営現状2011』ITTOテクニカルシリーズ第38号。ITTO、日本・横浜。ITTO (2011) 参照: www.itto.int/technical_report

ドイツ、スウェーデン、スイス、米国の各政府です。また、被援助国からも多額の資金や物品が提供されました。

評価では、全体として、プロジェクトが実施国すべてにおいて、森林、森林経営、地元コミュニティに重要かつポジティブな影響を与え、地元の生活と森林経営の改善、再生した森林の面積の増加、

生物多様性の保全に大きな成果を上げたことが明らかになりました。プロジェクトはまた、TICADで策定された重点分野など、世界の森林関連の取り組みにも貢献しました(図2)。

図2: 世界の森林関連の取り組みに寄与するITTOのプロジェクト



注: ITTO戦略目標とは、ITTO戦略的行動計画2013-2021に記載されているものであり、それらに基づき、10件のプロジェクトが実施された。

表1: 西・中部アフリカにおけるITTOプロジェクト10件の詳細(2010-2020年)

プロジェクトID	タイトル略称	国	期間	ITTO資金提供(米ドル)
森林経営、保全、コミュニティ参加、森林景観再生				
PD 456/07	コンゴ盆地のITTO加盟国における熱帯林の持続可能な経営と生物多様性保全のための能力開発	カメルーン、中央アフリカ共和国、コンゴ共和国、コンゴ民主共和国、ガボン	2012-2019	3 890 681
PD 754/14	ラムサール条約登録地1017および1028における聖なる森の再生と持続可能な経営	ベナン	2017-2020	541 031
PD 725/13	燃料(炭や薪)需要のために持ち去られた森林資源の補填を通じた 女性グループ MALEBIのメンバーによるアフア保全林の劣化した森林地帯の再生	コートジボワール	2016-2018	149 408
PD 419/06 (TICAD-5)	森林種子源の管理と保全:地元コミュニティ(難民、国内避難民、地元住民)を巻き込んだ劣化した森林の再生と修復	コートジボワール	2013-2018	1 800 000
PD 530/08	地元コミュニティによる劣化した森林の再生を通じて確立された森林経営 (PD 30/97 Rev.6のフェーズ2)	ガーナ	2012-2018	569 665
国家情報システム、統計、木材貿易、木材追跡				
PD 692/13	森林資源の持続可能な経営のための国家情報システムの導入と運用	コートジボワール	2015-2019	290 541
PD 124/01	アフリカにおける森林の持続可能な経営の促進 (ITTO事務局による実施) - フェーズ III - ステージ1&2	コンゴ盆地	2011-2016	1 100 000
PD 678/12	国家森林統計情報管理システムの構築	ベナン	2013-2016	398 704
PD 700/13	熱帯木材と木材製品のアフリカ域内貿易とさらなる加工の開発 - フェーズ1、ステージ1	カメルーン、コートジボワール、コンゴ民主共和国	2015-2016	1 399 989
PD 620/11	アフリカにおけるDNAフィンガープリントと安定同位体を用いた樹種識別と木材追跡システムの開発および実施	カメルーン、中央アフリカ共和国、コンゴ共和国、コンゴ民主共和国、ガボン、ガーナ	2012-2016	2 046 092
総計				12 186 111

重要な教訓

10件のプロジェクトの実施を通じて、ITTOとTICADのより広範な協働枠組みに適用でき、将来のプロジェクトの成果を向上させるのに役立つ可能性がある重要な教訓が得られました。これらのプロジェクトは、(1) 森林経営、保全、コミュニティ参加、森林景観再生、(2) 国家情報システム、統計、木材取引、木材追跡の2つの分野に大別されます(表1参照)。この2つのカテゴリーにおける重要な教訓を、以下に記載します。

森林経営、保全、コミュニティ参加、森林景観再生

この分野の5つのプロジェクトのうち、中部アフリカ森林・環境研修機関ネットワーク(Réseau des Institutions de Formation Forestière et Environnementale en Afrique Centrale: RIFFEAC)が実施したPD 456/07(Box 2参照)は、ITTOによる資金提供が389万米ドルと他のプロジェクトよりはるかに大規模なものであり、コンゴ盆地における持続可能な森林経営のための能力開発を主な目的としていました。同プロジェクトからは、次のような重要な教訓が得られました。

- ・ アフリカの森林セクターの教育とトレーニングの質を向上させることは、持続可能な森林経営、効率的な国内加工、持続可能なサプライチェーンに不可欠である。
- ・ RIFFEACが導入したマルチステークホルダー・プラットフォームの効果は、主要機関の重要な関係者らが優先行動を確認した上で推進し、切れ目のない情報フローを確保することで高めることができる。
- ・ テーマ別ワーキンググループは、プロジェクトの下で開発された研修モジュールとプログラムの実施とオーナーシップ、およびRIFFEAC研修機関での関連教育方法の普及において、重要な役割を果たした。
- ・ 国または地方レベルでデータベースを刷新または作成するプロジェクトに着手する前に、コンピューターシステムの互換性や、インフラとバックグラウンド情報が利用できるかどうかを評価し、ニーズアセスメントを実施する必要がある。



コンゴ共和国国立農学・林業学校の学生グループに、林業で用いる計測機器を実演して見せるMbeté教授(PD 456/07)。写真: Mamonékéné

残りの4つのプロジェクトは、いずれも森林景観の再生に幅広く取り組んでおり、地元のコミュニティやその他多くのステークホルダーが関与しています。主な教訓は以下の通りです。

- ・ 持続可能な森林経営と森林景観の再生に取り組むプロジェクトを成功させるためには、長期的な森林と土地利用の計画が必要となる。また、景観についての詳しい知識や、土地利用の意思決定に影響を与える主要な関係者を正確に特定することも必要である。
- ・ ITTO森林経営プロジェクトは、各国とその開発パートナーによるスケールアップにあたり、新しいアプローチとツールを試行するための触媒と見なされるべきである。
- ・ ステークホルダー同士の連携は、森林再生の成功に寄与する。そのためには長期的に取り組む、関係や信頼を築く必要がある。
- ・ コミュニティ林業は、地元コミュニティが森林の利用、経営、再生に関する正式な権利を獲得するための重要な土地保有メカニズムであり、生計の改善に繋がる(Box 3参照)。
- ・ 地元のステークホルダーの効果的な参加を促し、公正な利益を確保するため、コミュニティには慣習に基づく強力な権利と確実な保有権が必要である。

- ・ 農村部の女性は森林の再生に参加することによって、木の苗の間に作物を植えて自身の収入を増やすことができる。また、木質燃料用に成長の早い樹種を植えることで天然林への圧力を軽減することもできる。

Box2: コンゴ盆地における森林教育の推進

2006年にコンゴ盆地の5カ国で実施されたITTOの調査では、持続可能な森林開発に必要な資格を持つ人材が不足しているという結論が出ました。持続可能な森林経営と生物多様性保全に関連する活動に必要な人材として、年間180人の技術者と440人の上級林業技術者が不足していると推定されます。この調査がきっかけとなり、中部アフリカ森林協議会の支援の下、人材不足を解消するための能力開発プロジェクト(PD 456/07)が、RIFFEACによって開発されました。RIFFEACは26の林業・環境研修機関で構成されており、2012年から2019年にかけてサブリージョナルで実施されたプロジェクトでは、そのうち7つの機関(5カ国)が関与しています。

- ・ 森林の重要な側面である生物多様性が常に十分に考慮されるよう、すべてのプロジェクトに生物多様性に関する目標を入れるべきである。
- ・ 植林と自然再生のいずれにおいても、森林再生に郷土樹種を活用できるということを人々に納得してもらうためには、地元のステークホルダーの参加と地元コミュニティへのインセンティブの付与が重要な要素となる。
- ・ 森林での活動に参加し、植林した森林で生産された製品を使うことで、地域住民は森林再生を自らが担うというオーナーシップの感覚を育むことができる。
- ・ 森林消失による環境危機への認識が、植林への動機づけに強く影響する。
- ・ 劣化した森林を農地に転換しないことによる機会費用については、生態系サービスへの支払い、炭素クレジット、代替生計手段などを通じて補償する必要がある。
- ・ 効果的なモニタリングと評価システムの確立は、プロジェクトを成功させ、効率と効果を高めるために極めて重要である。
- ・ 既存のシステムと置き換える、あるいは補完するような新しいシステムを導入する際には、事前に政府の手続きやシステムを慎重に評価する必要がある。

Box3: ベナンの聖なる森における生物多様性の保全

聖なる森とは、地元コミュニティが宗教的な理由から維持している森林のことです。面積は小さくても、多くの場合、生物多様性に富み、生態学的、文化的、精神的に重要な役割を担っています。ベナンには2,900以上の聖なる森があり、面積は18,400ヘクタールに及びますが、その多くは、無秩序な搾取、農業への転換、都市の圧力、木質燃料への大きな需要、農村部の貧困、宗教的信仰の喪失などによって劣化しています。ITTOプロジェクト(PD 754/14)を通じて、42の聖なる森が法的に認められ、区画整理され、シンプルな森林経営計画が作成されました。150ヘクタール以上の聖なる森が貴重な樹種の苗木で豊かになり、一部の地域では動物相が再導入されました。またこのプロジェクトの下、アグロフォレストリー、養蜂、ヤギ・豚・鶏・ウサギの飼育、魚の養殖、非木材の林産物の生産と取引をはじめとした収入を得るための事業が導入され、地元の人々に恩恵を与えています。聖なる森の緩衝地帯の一部にはチークやアカシアなどが植えられ、木材や木質エネルギーに対する地元のニーズを満たすのに役立っています。



ITTOプロジェクト(PD 754/14)の一環として実施されたベナンの聖なる森でのエンリッチメント・プランティング。同事業により、42の聖なる森で、計162ヘクタールの森林が在来樹種の植え込みによって豊かになった。写真: B. Bossou/CESAREN



ベナンの苗床で働く女性。森林活動に参加し、植林した森林で生産された製品を使用することで、地元住民は森林再生の取り組みへのオーナーシップの感覚を育むことができる。写真: J. Blaser



コートジボワールのドゥエクエ保護林でアフィナの苗木の手入れをする地元住民(PD 419/06(TICAD-5))。写真: E. Amonkou/SODEFOR

国家情報システム、統計、 木材取引、木材追跡

このカテゴリーの5つのプロジェクトのうち3つは、国家を超えた規模で実施されました。得られた知見は以下の通りです。

- 貿易と産業に関連するプロジェクトや活動には、可能な限り地域経済共同体を巻き込む。
- リージョナル・マネージャーを含む広域コーディネーションチームを設置することで、複数国家にわたるプロジェクトの実施を適切に監督することができる。
- プロジェクトの目的、範囲、ターゲットについて、すべての参加国が共通の理解を持つことが重要である。

その他、より一般的な教訓として、以下が挙げられます。

- プロジェクトから得た技術的・科学的知見は、あらゆるレベルの政策立案者に実用的な助言を提供できなければならない。

- プロジェクトの主な発見や成果を、英語、フランス語、その他広く話されている言語を用いて、潜在的な利用者や、より多くの人々に効果的に普及させることが、コミュニティの支持の拡大につながる。

- アフリカでの木材消費量が増加しているため、人為的な障壁を取り除き、木材消費量増加に関する地域経済団体同士の対話を増やすことによって、木材および木材製品のアフリカ域内における貿易を発展させる必要性和チャンスがある。

- 研究所スタッフを対象に高度な木材追跡方法に関するトレーニングを提供したITTOプロジェクト(PD 620/11)から得られた教訓には、以下のものがある。

- 参照用サンプル収集の際の品質管理について、十分なトレーニングが必要である。
- サンプルのサイズは、正確な結果を保証するのに十分な大きさである必要があり、すべての主要な樹種を含むように広範囲にわたって収集を行わなければならない。



ドイツ・チューネン森林遺伝学研究所でDNA抽出技術の練習をするコンゴ共和国からの研修生Francois Mankessi (PD 620/11)。写真: Lasse Schindler/Thünen Forest Genetics

- アフリカ諸国における森林法の施行と管理のため、遺伝子解析ツールがより広く使用される必要がある。最終的には、これらのツールはアフリカの林産物市場へのアクセスを増加させると見られる。



ベナン・ソウンキジャズの聖なる森の緩衝地帯にアグロフォレストリーを確立する取り組み(PD 754/14)の一環として、トウモロコシ畑にアカシアの苗を植えるコミュニティメンバー。
写真: B. Bossou/CeSaReN

難民のグループに森林再生について紹介するコートジボワールのプロジェクト (PD 419/06 (TICAD 5)) の担当者。写真: E. Amonkou/SODEFOR



コートジボワールのドゥエクエにあるITTOプロジェクト (PD 419/06 (TICAD-5)) により建設された倉庫の前でポーズをとる女性と子どもたち。写真: P. Masupa/ITTO

未来に向けて変化を促進

アフリカで持続可能な林業を推進するためのプロジェクトや政策活動は、今後、急速に変化する世界の政治状況の中で、また、人間の安全保障、紛争、気候変動、食料安全保障、人獣共通感染症の出現などに関する懸念の中で実施されることとなります。同時に、アフリカの森林セクターにとっては、「より良い復興 (building back better)」、レジリエンスと経済生産の増加、およびSDGsの達成に貢献する機会でもあります。

政府、市民社会、民間セクター、研究調査機関、国際的なドナーコミュニティは、介入によるポジティブな影響を最大化し、潜在的な脅威に対応するために、協力し合う必要があります。ITTOとTICADの両方の目標に対応する作業分野には、次のようなものがあります。

- ・ 景観レベルで食料安全保障を支える手段として、自然林の劣化と消失を食い止める。
- ・ 遠隔地の森林の開放を最小限に抑え、野生生物の取引と市場をよりよく規制することにより、新たな人獣共通感染症が発生するリスクを軽減する。
- ・ 森林の消失と劣化を引き起こす様々な圧力に屈することなく、保全のための投資を保護する。
- ・ COVID-19のパンデミックから自然に配慮したかたちで回復し、より循環型のバイオエコノミーに向かうための政策と戦略を策定する。
- ・ 森林内に難民キャンプが作られた地域など、土地劣化の圧力が高い地域における森林景観の再生を奨励する。

ITTOとTICADのための 政策ガイダンス

ITTOとTICADの協働事業の枠組みは、持続可能な開発を追求するアフリカの人々の課題とニーズに対応し、2つの機関の目的に沿うように特定することができます。ITTOは、持続可能な森林経営および、木材の付加価値と貿易に重点を置いています。ITTOのプロジェクトは通常1〜4年かけて実施されます(ただし、段階的に実施することも可能で、より長い期間にわたることもあります)。プロジェクトでは、ベストプラクティス、コミュニティや機関の能力開発、地元・国・国際レベルでのスケールアップの可能性を重視しています。ITTOはプロジェクト実施に豊富な経験を持ち、透明性、監視、モニタリング、報告を確保できるように設計されたプロセスとセーフガードを備えています。

アフリカでの持続可能な森林経営の推進には多くのドナーが強い関心を寄せていることから、ITTOとTICADの協働事業は、日本政府が十分な初期資金を提供することで、他のドナーや金融機関からの資金援助を引き寄せる可能性があります。ITTO/TICADプロジェクトを西アフリカとコンゴ盆地におけるより広範なイニシアティブとプログラム(地球環境ファシリティアや中部アフリカ森林イニシアティブなど)と関連付けることで、プロジェクト案への共同出資の道を探ることもできます。

2つの機関が共有する目標、および国や地域の目標に、プロジェクトが最大限に貢献できるように、アフリカ諸国からITTOに提出されるプロジェクトには以下の点が期待されます。

- ・ 広域的に設計され、森林景観に基づくソリューションに焦点を当てており、現在と将来の世代のために景観を損傷のないかたちに再生し、生物多様性を保全し、生態系サービスを向上させることの重要性を認識していること⁴。
- ・ 空間計画に基づき、複数のスケールで機能するよう設計されていること。
- ・ 生物多様性の保全とその他の生態系サービスの提供に関する具体的な目標を含むこと。
- ・ 明確で測定可能な指標がある、強固なモニタリング・評価・学習システムを有すること。
- ・ 地元コミュニティおよび国家レベルでの経済的成果の向上につながるものであること。

⁴ 森林景観に基づくソリューションは、気候変動との戦い(緩和と適応)と持続可能な開発目標の達成における森林の役割を強化しようとするもので、(例えば)グリーンサプライチェーン、緑の回廊(コリドー)の再生、コミュニティベースのREDD+プロジェクト、革新的な森林モニタリングシステム、研究開発などの役割に焦点を当てています。詳しくは、ITTOの『熱帯における森林景観再生のためのガイドライン』www.itto.int/guidelines 参照のこと。



ITTOフェローシップ・プログラムによる資金援助を部分的に受け、論文作成のための現地調査の一環として、ガーナのスニャーニ森林地区で小規模森林所有者にインタビューをするDorothy Asare Akoto。写真: D. Akoto



中央アフリカ共和国、バヤンガのゾウ。アフリカにおける今後のITTOプロジェクトは、森林景観に基づくソリューションに焦点を当て、景観を損傷のない状態に再生し、生物多様性を保全し、生態系サービスを強化することの重要性を認識する必要がある。写真: Intu Boedihartono

ガーナ、エンバミソ森林保護区のアフロ
ルモシア(*Pericopsis elata*)の成木。写真: NDF



政府、現場実務者、 学術研究機関向け

- プロジェクトは、目標に長期的に取り組むことができる場所で、生産林の持続可能な経営を支援する必要がある。
- 組織やコミュニティの能力開発は、すべてのプロジェクトにおいて不可欠である。
- プロジェクトは適切な情報通信技術(DNAバーコーディング、ドローン、スマートフォンのアプリケーションなど)を使用し、これらの技術のアフリカの森林セクターへの導入に関するトレーニングや教育を支援する必要がある。

政府および現場実務者向け

- プロジェクトは、地元コミュニティ、先住民族(該当する場合)、女性、若者をプロジェクトの開発・実施・成果に含め、彼らから、事前に十分な情報を与えられた上での自由意思に基づいた同意を得られるようにする必要がある。
- 地元のニーズ、好ましい樹種、必要なトレーニングやインフラのレベルなどを理解するために、プロジェクトの開発にはコミュニティとの広範囲にわたる協議が必要である。
- 生計プログラムは、持続可能で環境に優しいグリーンサプライチェーンを確立し、プロジェクト完了後の適切な期間中(例えば3年間)、生計改善の成果をモニタリングするための正規の計画を含むべきである。
- 広域および国境を越えたプロジェクトは、作業分担と計画合意、高官の参加、および関係政府間の正式な合意書に支えられるべきである。



プロジェクトはその開発・実施・結果において、地元コミュニティ、先住民族、女性、若者を含むものとし、彼らから、事前に十分な情報を与えられた上での自由意思に基づく同意を常に得られるようにしなければならない。写真: A. Sarre



コートジボワール・アフア保全林のチーク、アカシア、キヤッサバの植林により回復した地区に立つ、女性グループMALEBIの代表Delphine Ahossi (PD 725/13)。写真: MALEBI



国際熱帯木材機関

横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜 横浜国際協力センター5階

Tel +81-45-223-1110 Fax +81-45-223-1111 Email itto@itto.int Web www.itto.int

© ITTO 2022